

放流河川河口周辺での遊漁によるサケ釣獲尾数

北海道において秋サケ釣りはとても人気の高いレジャーの一つです。時期になると船釣りで賑わうオホーツク海や噴火湾の沿岸、投げ釣りが盛んな十勝釧路地方の海岸といった有名どころばかりではなく、道内各地にある釣り場へ多くの太公望が集まります。また、北海道においては内水面でのさけ・ますの採捕は禁止されているのですが、忠類川や浜益川では有効利用調査として釣りによる採捕が認められており、こちらも鼻が曲がった厳つい容姿のサケを狙って道外からも釣り人が訪れるほどの人気です。

ところで、秋サケは北海道の重要な水産資源の一つであり、古くから人工ふ化放流が行われてきたことから、沿岸での漁獲尾数や河川での種卵確保のための捕獲尾数は記録として残されています。しかしながら、秋サケの遊漁による釣獲尾数については、秋さけ船釣りライセンスが設けられている斜里沿岸および有効利用調査が行われている忠類川や浜益川を除いて把握されておらず、釣り情報誌等でその実態を垣間見るに過ぎません。そこで、さけます・内水面水産試験場道南支場では、秋サケを狙った釣り人が多く集まる八雲町熊石地区の相沼内川河口周辺において、ビデオカメラを用い釣獲の実態を調査することとなりました。

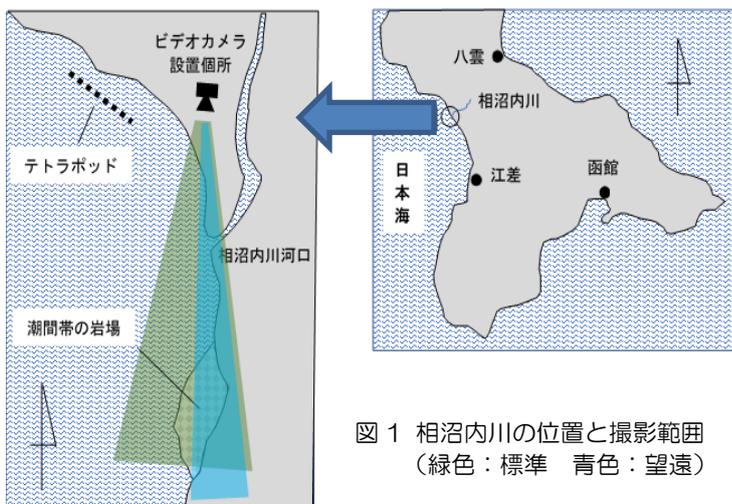


図1 相沼内川の位置と撮影範囲
(緑色：標準 青色：望遠)

相沼内川は日本海に注ぐ小規模河川で、毎年春に約800万尾のサケ稚魚が放流されています。そして、毎年秋には数千尾のサケが種卵確保用として捕獲されています。相沼内川の河口から約200m離れた相沼内捕獲場の敷地に標準ズームビデオカメラと望遠ズームビデオカメラとの2台のカメラを設置し、1台のビデオレコーダーに2017年9月1日から11月4日の間毎日4時から20時まで河口周辺の映像を記録しました(図1)。ただ、河口右岸側にはビデオカメラの死角があり、河口左岸側にある潮間帯の岩場は、距離があるため釣獲者の人数は計数できても、釣獲尾数のすべてを把握するのは困難でした。およそ週に1度の間隔でビデオレコーダーに記録された1週間分の映像を一旦外付けハードディスクにコピーし、ハードディスクのみを道南支場に持ち帰り、パソコンとモニターで時間毎の釣獲者数、釣獲尾数を確認しました。



写真 望遠ビデオカメラで撮影した相沼内河口周辺

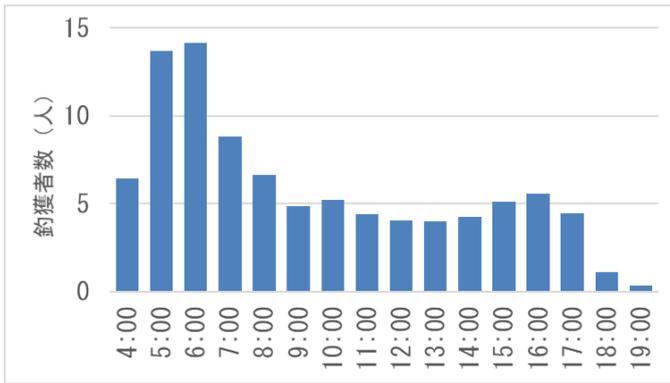


図2 ビデオカメラ映像から確認した毎正時の日平均釣獲者数

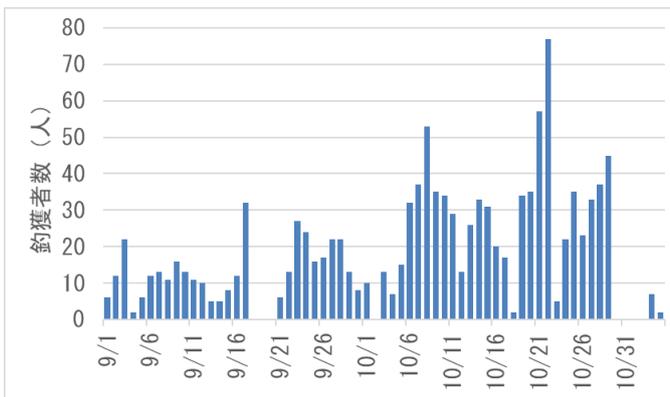


図3 ビデオカメラ映像から確認した6時と16時の釣獲者数合計

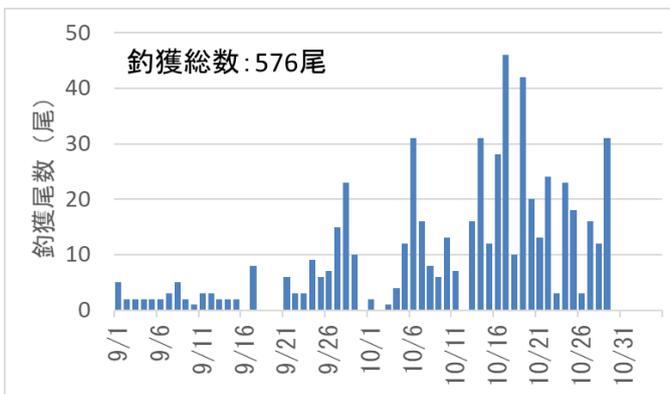


図4 ビデオカメラ映像から確認した日別の釣獲尾数

相沼内川河口周辺における釣獲者は調査を開始した9月1日から終了した11月4日までの全期間で確認されました。期間を通して5時から7時にかけての時間に釣獲者が多く、その後日中にかけて少なくなり、夕方に再び増加する傾向がみられました(図2)。ここで、釣獲者が多く確認された6時および16時時点の釣獲者数の合計をその日の釣獲者数と仮定すると、釣獲者数は9月1日から16日までは2~22(平均:10)人で、その後波が高かったいわゆる時化の18日から20日までを除き9月中は6~32(平均:18)人でした。10月は釣獲者数が増え、時化の日を除き2~77(平均:29)人でした(図3)。

釣獲尾数は調査開始の9月1日に5尾が確認され、16日までは5尾以下の日が続き、16日までの総釣獲尾数は38尾でした。その後釣獲尾数は徐々に増加し、時化の日を除く17日から30日までは5~23(日平均:14)尾が釣獲され、総釣獲尾数は90尾でした。10月に入っても釣獲尾数は17日まで徐々に増加し、時化の日を除き1~46(日平均:17)尾が釣獲され、10月の総釣獲尾数は448尾でした。10月末の時化の後、釣獲者は11月4日まで確認されましたが、釣獲は確認されませんでした。以上、ビデオカメラで確認されたサケの釣獲総数は576尾でした(図4)。

ビデオカメラには死角があり、距離が遠い左岸側にある潮間帯の岩場付近での釣獲尾数確認は難しいと前述しましたが、釣獲ピーク時の10月中旬に死角となっているテトラポッドの左側には10名ほどの釣獲者が数尾のサケを釣獲しているのを目視で確認しており、潮間帯の

岩場でも同様に釣獲しているのを複数目視で確認しています。このことから、相沼内川河口周辺で釣獲されたサケの尾数は、ビデオカメラで確認された576尾より若干多いと考えられます。

別の調査で相沼内川の河口周辺で釣獲したサケ10尾にダーツ型タグを装着して放流したところ、相沼内川で4尾、近くの定置網で1尾が再捕されました。相沼内川の河口周辺で釣獲されたサケがすべて相沼内川に遡上するわけではないようですが、2017年に相沼内川で種卵確保のために捕獲されたサケ6,063尾のおよそ1割が相沼内川河口周辺で遊漁により釣獲されたという結果になりました。

(北海道立総合研究機構 さけます・内水面水産試験場 道南支場 青山智哉)